

津軽地域 4 消防本部の広域化

## 「安全・安心の確保」と「きめ細かな消防行政」を目指して

青森県 弘前地区消防事務組合消防本部

### 1 管内の概要

弘前地区消防事務組合は弘前市、黒石市、平川市、藤崎町、板柳町、大鰐町、田舎館村、西目屋村の3市3町2村で構成されております。

管内人口約30万人、管内面積約1,597km<sup>2</sup>に1本部、5消防署、10分署を配置し、車両台数82台、職員454人（平成26年4月1日現在）で災害に対応しております。

地勢は、青森県の南西部、広大な津軽平野の南部に位置しており、東に奥羽山脈の「八甲田連峰」、西に青森県最高峰で日本百名山に選定されている津軽富士とも呼ばれる「岩木山」、南には広大なブナ原生林を抱く世界自然遺産の「白神山地」と三方を山々に囲まれ、平野部においては、県内最大流域面積の「岩木川」が流れております。

観光面では、日本一を誇る弘前公園の「さくらまつり」はゴールデンウィークと開花が重なることから、毎年200万人を超える多くの観光客で賑わっています。



弘前さくらまつりと岩木山

### 2 広域化に至る経緯

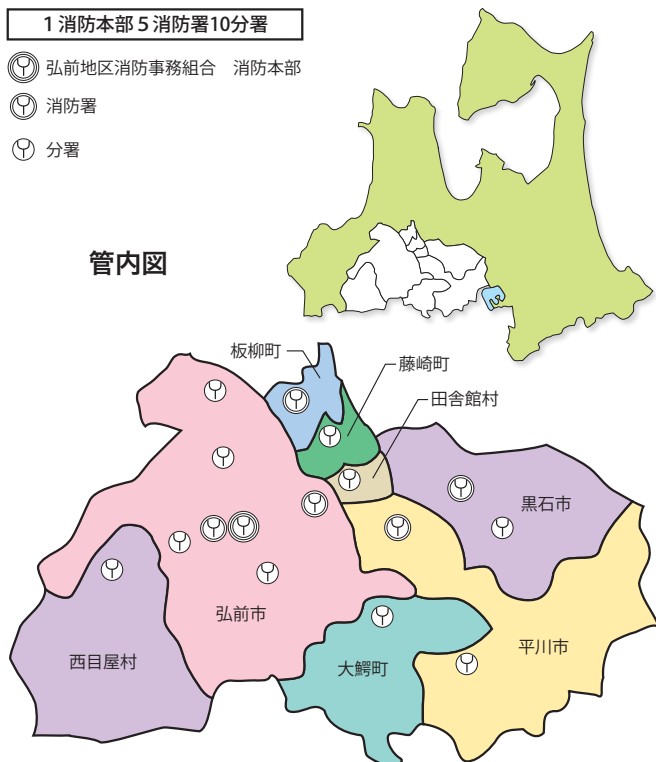
平成18年6月の消防組織法の一部改正に基づき、青森県では、平成19年8月に「青森県消防広域化推進計画検討委員会」を設置し、消防の広域化が県内の消防力を高めるために有効な手段の一つであるとして、県内14消防本部を6つの消防本部に編成する「青森県消防広域化推進計画」を平成20年3月に策定しました。

津軽地域の枠組みとしては、弘前地区消防事務組合を中心に、黒石地区消防事務組合（黒石市、田舎館村）、平川市消防本部及び板柳町消防本部の4消防本部を統合する計画となりました。県の主導のもと、構成する8市町村及び4消防本部の担当課長会議を重ね、消防広域化の手法、想定される効果や課題など、事務レベルで協議しながら広域化の実現に向けて検討を進めてまいりました。

平成22年7月には津軽地域の8市町村長による「円卓会議」において消防の広域化を進めていくことで基本合意がなされ、翌月に津軽地域消防広域推進協議会（以下「協議会」という。）が発足しました。

平成23年4月には、各消防本部及び弘前市役所から派遣していただき専任職員6人による協議会事務局を設置し、本格的な事務事業の調整を開始しました。

その後、紆余曲折がありましたが、34項目の大綱と細部協議項目123項目の調整・協議を経て、平成25年7月1日に「新たな弘前地区消防事務組合」が発足しました。



## 3 広域化の効果

広域化の効果としては、初動体制や応援体制における迅速な部隊の投入が可能となり近隣地域の消防力が強化されました。

平成26年6月、平川市内の自動車整備工場約1,500㎡を全焼し、整備中の車両等およそ40台のほか隣家にも被害を及ぼした火災では、第1出動車両5台のほか、増援部隊として6台を出動させ、延焼拡大を防止することができました。また、この火災が鎮火する前に同市内の別の場所で一般住宅火災が発生したが、更なる部隊を投入して迅速に対応できたことも広域化による効果であると実感しております。

今後は、統合前の各消防本部庁舎で行っている指令業務を平成27年度に一元化することにより、効果的な部隊運用を行うことが可能となり、更なる消防体制の強化が期待できます。

また、統合による余剰人員を活用して、予防や火災調査などの専門分野への配置が可能になったほか、消防本部に新たに職員の研修・厚生と人事部門を担当する人材育成課を新設（消防本部5課制）し、人材育成を強力に推進しているところです。これから多数の定年退職を控えておりますが、人材（財）が育つ環境づくりに努め、住民サービスの低下を招かないよう計画的に現場力とチーム力を高める「人づくり・組織づくり」に取り組んでおります。

財政面の効果では、平成26・27年度の2か年で消防救急デジタル無線及び高機能消防指令センターの総合整

備事業を進めており、広域化前の単独整備に比べ大幅な経費削減が見込まれています。

また、広域化に伴い機能強化を図る消防車両の整備に関しては、「緊急防災・減災事業債」を積極的に活用し、指揮隊車・水槽付消防ポンプ自動車・救助工作車の車両及び高度な装備・資機材の整備を進めています。

## 4 今後の課題

指令センターが一元化することにより余剰人員が見込まれることや初動体制、応援体制、職員配置など様々な分野で検証し見直しが必要となることから、広域化前の協議会で「経費の負担方法は統合後5年を目途に見直しをする。」と決定しております。

今後、統合効果のある新たな負担方法など検討していかなければなりません。関係市町村の理解と協力を得ながら諸課題の解決に取り組んでまいりたいと考えております。

## 5 おわりに

統合に伴い当組合のマスコットキャラクター「消防犬 火けしくん」がデビューし、子どもたちを始め、住民の防火意識の向上に日々がんばっております。今後も、私たち職員と火けしくんが一丸となって、津軽地域住民の安全安心の確保ときめ細かな消防行政に積極的に取り組んでまいります。



新弘前地区消防事務組合発足式



マスコットキャラクター「消防犬 火けしくん」お披露目式